

YWVOB会 会報 No.41

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

<http://ywvob.com/>

2009年 4月 1日発行

～ 41号の目次 ～

・YWVOB 会長ご挨拶・・・・・・・・・・・・・1	・2008年シニアOB月例会報告・・・・・・・・・・・・・9
・第1回OB役員会報告・・・・・・・・・・・・・2	・自由投稿
・OB会新役員紹介・・・・・・・・・・・・・3	ヒマラヤトレッキング紀行・・・・・・・・・・・・・12
・第24回OB山行(九鬼山)報告・・・・・・・・・・・・・5	・YWV現役部員の活動紹介
・第25回OB山行(皇海山)案内・・・・・・・・・・・・・6	新主将紹介/春合宿報告・・・・・・・・・・・・・14
・苗名小屋便り・・・・・・・・・・・・・7	・編集委員からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・15

■ YWVOB会長ご挨拶

会長 鈴木弥栄男 (9期)

2008年11月のOB総会で第3代目の会長に選ばれた鈴木です。

当会も会員数が500名を超し、我が横浜国大のクラブOB会の中でも有数のものかと思われま

す。2007年には創部50周年、2008年には自前の山小屋40周年と節目を迎えました。2009年は、そのような節目の年ではありませんが、竹の節に喩えれば更に上へと伸びようとする年に当たるでしょう。

総務、山行、小屋、編集、HP、部史編纂各委員会、幹事長、会計幹事、監査役の役員が従来以上に率先、工夫、企画して、会員の皆様がより参加され諸活動を大いに楽しまれるよう図っていく所存です。

この会報は年に3回発行されますが、メールの活用やHPの活用などを通じて情報を共有化し、併せてワンゲルクラブの現役との橋渡しも開拓していこうと考えています。



雪原を横断して苗名小屋に雪下ろしに向かうOB会員 2009/2/21

■ 第1回 OB会役員会報告

幹事長 石川 真 (41)

2009年1月31日 川崎市多摩市民館で今年度第1回目の役員会を開催しました。17名もの役員が出席し、OB会をさらに盛り立てるための議論を行いました。開始から終了まで議論が尽きず、予定していた議題をすべてこなすことができませんでした。終了後は新年会を行い、役員同士の親睦を深めました。

【出席者】 嘉納 (1)、吉野 (2)、吉村 (3)、松本 (8)、鈴木 (9)、下村 (10)、安藤 (11)、榎本 (12)、山口 (18)、笛木 (19)、西田・武藤 (20)、白木・横溝 (21)、小野 (34)、石川 (41)、塩野 (46)

計 17 名

【議 題】

① 2009年度活動予定表の作成

OB 総会開催場所について、HCD (ホームカミングデー) の開催に合わせるか否かを議論した。

HCD のプログラムと OB 総会の都合を合わせやすくするよう、HCD 運営委員会に申し入れを行うこととした。

② 各委員会報告

(ア) 総務委員会

3つのメーリングリスト (OB 会、山小屋、OB 会役員) の整備を行うため、運営状況や管理者の確認、引き継ぎを行い、その結果、OB 会 (廃止または再構築を再度検討)、山小屋 (現状維持)、OB 会役員 (管理者引き継ぎ: 石川^{41st}⇒武藤^{20th}) となった。

(イ) 会計

会費収入は当初より3万円プラスだが、寄付収入のうち小屋寄付は4万円マイナスと低調であった。この結果、小屋会計の収入が減少してしまうため、一般会計より不足分の4万円を補い、今年度小屋振替を予算どおり15万円とすることが提案され、出席役員の全員賛成により承認された。



小野山行委員長が新しいOB会旗を披露
今まで1旗だった部の旗がもう1旗できて
2旗となりました。
OB山行などの行事で掲げられます。

☆ 次回役員会: 2009年4月18日 (土)
14:00~17:00
場 所: 多摩市民館 (4階 会議室)
(小田急線向ヶ丘遊園駅北口から徒歩5分)

OB会新役員紹介

副幹事長 西田雅典 (20期)

具体的には年数回行う、役員会の運営を担当します。何か議論されたいことがあればご意見をお寄せ下さい。また、役員会に出席していただくこともできますので、皆様のご協力のほどよろしくお願いします。

これまで会社中心の生活、海外赴任などでOB会から遠ざかっていました。山の方も数年前に家族5人で苗場山に登ってから活動停止状態で、山小屋も入社して何度か行きましたが20年くらい行っていません。これを機に少しずつOB会活動に広く参画したいと思っています。

最近、同期で集まります。皆さんもお感じと思いますが、この歳になってワングルの和の大事さ、凄さを強く感じます。少し前ですが、小洒落たフツアの居酒屋に同期10人強で集まりました。帰り際にお約束の通り「みはるかす」を皆で大声張り上げて歌い、エールで締めました。コンプラ、CSRが闊歩する時代ですが、これだけは守ってゆきたいですね。

総務委員長 横溝真司 (21期)

昨年11月のOB総会で総務委員長に就任しました。宜しくお願い致します。ここ6年ほど、総務委員をやっておりまして、役員会の事情やいきさつなどは分かっておりますが、委員長となると身が引き締まるのを感じます。過去2代の総務委員長が多忙な方で役員会にも出席できなかった状態でしたので、私は会議に出席するのだけは、最低限の義務だとして実行してゆきたいと思っています。

私ごとですが、13年ほど前に脳出血になり左半身まひという身になりましたので、山は無論、下界での行動に不自由がありますため、白木、武藤の両副委員長にお助けいただき、委員長の職務を果たしてゆきたいと思っています。総務の業務は大きく分けて、総会、役員会などの会議の設定と運営、名簿、メーリングリストなどの管理の2つです。現在名簿はしっかり管理されていますが、メーリングリストは3種のもので並立し、また連絡手段として有効に活用されていない面があるので、これを改善したいと思っています。今まで20期前後の役員は私一人でしたが、今回の改選で17期以降の役員が大幅に増えたので心強く感じています。鈴木新会長の元、今まで以上にOB会を活性化させてゆきたいと考えています。皆様のご協力をお願い致します。

総務副委員長 武藤功二 (20期)

この度総務副委員長を担当させていただくことになりました。以前は大学卒業後も必ず毎年最低1回は家族と共に山に登っていましたが、近年は年1回行けるかどうかの状態ですが、メーリングリストの整備等OB会の活性化に向けて活動して行きたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

ところで最近のマイブームは検定試験ですが、ECO検定、ご当地検定もそろそろ卒業し、開港150周年の今年は、メタボ対策済みの体にて、世界遺産検定の受験、浜スタでの野球応援、横浜マラソン初出場(10km)にがんばります。

総務副委員長 白木政隆 (21期)

今期より総務副委員長として横溝委員長をサポート致します。35歳位までは全く山行はしていませんでしたが、たまたま出向先の社長とつるんで山に行ったのが発端で、今ではトレーニングも兼ねてちょくちょく丹沢に行くようになりました。スケジュールが合えば(かつ体力がもう少し付けば)今後OB山行にも是非参加したいと思います。50歳台になると、「出会い」以上に「別れ」がどんどん増えてきますが、やはり出会いや再会の機会を増やしていきたいですね。今までは同期や近い期の先輩や後輩と飲む場がほとんどでしたが、これからはいろんな行事にも、もっと参加して幅広い交流を深めていきたいので、どうぞよろしくお願いします。

OB山行副委員長 小浜一好 (17期)

山行委員長の34期小野さんを支え、副委員長として18期山口さんとともにOB山行を盛り上げていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。これまで参加していない方も気楽に来ていただけるよう努めたいと思います。実は私自身もOB山行に参加するには、ちょっとしたためらいがありました。それは長い間、山に行っていなかった体力面の不安や新たに道具を整える煩わしさと同時に、同期や近い期とならばともかく、まるで存じ上げない大先輩のOBの方々とご一緒するのを気後れしていたからです。それでも一度参加すると体力面では意外と昔取った杵柄であったし、最新の装備は隔世の感で新鮮であるし、大先輩は気さくで、いろいろ

なことに挑戦している魅力的な方々ばかりで、いつしかOB山行の常連になりました。何よりも慌ただしい日常を離れ、自然に包まれることが心地よかったです。

それと並行するように職場の同好の士（老若男女、その中で私は老男の部類）で冬山を含めて年何回か行くようになり、50歳を境にあらためて山の楽しさや癒し効果をしみじみ味わっています。今後、シニアOB山行という素晴らしい成功事例に学び、皆さんからご要望やアイデアをいただきながら安全で楽しい企画を提供したいと思っています。

OB山行副委員長 山口貢三（18期）

私がOB会について関心を持ったきっかけは、OB山行に17期の方が参加し始めていることをOB会報を通して知ったことでした。それまでの山行は会社やクラブの仲間を中心に考えており、YWWとの付き合いは途絶えていたのです。そこに身近な17期の方の名前を見出してからは懐かしさも手伝ってOB山行に時々顔を出すようになりました。18期の仲間を誘って参加したこともありました。何よりも嬉しいのは、初対面の方でも「□□期の〇〇です」といった途端に絆が生まれ、「みはるかす」を共に歌うことができることです。今ではOB山行も私の大事な年中行事のひとつとなっています。OB会は山を軸とした活動を実践する‘現役’のクラブでもあります。こうした友垣を育てていくために、OB山行は重要な行事です。私がそうであったように、仕事と子育てに忙しい時期をすぎると山に回帰する人が必ずいます。そんな人にもOB山行に参加し仲間の輪を広げるきっかけにしてもらえるように努めていきたいと思っています。

OB小屋委員長 安藤貞利（11期）

これまで小屋委員長をやっていた後藤さんが公私共にお忙しく、正副交代しました。また、今年から新たに18期向井さんと19期笛木さんが小屋委員になりました。小屋委員会は、現地委員も含め総勢16名ですが、一堂に集まるのが難しく、メールでの連絡と小屋に集まったときに小屋整備の具体的内容や雪下ろしの時期などを話しています。小屋委員会に限らず小屋メールに登録された方々にも、随時メールで連絡をして開かれた小屋活動を行っています。今年は、昨年行いました山菜採りなどの季節行事を増やして、気軽に小屋に遊びに来て頂けるようにしていきたいと考えています。ぜひ年1回は小屋に足を運んで頂くようお願いいたします。

OB小屋委員 向井良作（18期）

入部後間もない5月の連休に先輩に連れられて小屋に入りました。残雪と水芭蕉、落葉松の新緑の中で3日間過ごし、一遍で苗名小屋が好きになりました。当時電気もなくすきま風の入る建物でしたが、3期の井上さんのフキの味噌を味わい、16期の岩田さんに連れられて長野県に鱒を買い出しにいった鱒こくを食べたこと、先輩部員の建設の熱意と、思い出のつまった小屋のインパクトは大きなものでした。その後、冬山訓練、スキー合宿と冬に訪れることになるのですが、雪に埋もれた小屋は動物の棲む穴倉のようで居心地が良かったです。

自分でも小屋が欲しくなり、平成元年に奥武蔵の伊豆ヶ岳の近くに小屋を建てました。爾来20年、木を切ったり釘を打ったり穴を掘ったり木を植えたりと、飽きずに楽しんでます。

昨年久しぶりに苗名小屋に行き、40年の間、皆に愛され維持されて、一層趣深くなった小屋をみて嬉しくなりました。小屋委員は、草刈要員としてのご指名とうけとめ、快適なたき火が楽しめるよう、庭の整備に努めたいと思います。

ワングル20期の家内と娘3人で東京中野に住んでいます。自営で不動産屋を営んでいます。どうぞよろしくお願いいたします。

OB小屋委員 笛木久栄（19期）

大学に入ってまもなくの頃、高校の先輩から勧誘を受けました。その時「ワングル部は妙高に山小屋を持っている。クラブ独自で持っているなんていいでしょう」と言う話を聞きました。その誘い文句につられ入部、そして現在も山と縁の深い生活をしています。

憧れの山小屋に行ったのは、たしか大学2年の夏でした。卒業後はなんとなく足が遠のいていました。

心の中の山小屋状態でした。一昨年の50周年行事で山小屋式典を担当させていただきました。本当に何十年ぶりだったことでしょう。未だに飾ってあった徳繁君の写真を懐かしみながら、時の流れと時間の止まったような空間を感じました。

今年から山小屋委員の末席に名前を連ねさせていただくことになりました。微力ではありますが、少しでもお役にたてればと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

■ 第24回OB山行（九鬼山）報告

OB山行副委員長 山口貢三（18期）

日 程：2009年1月17日（土）

参加者：嘉納・吉田（1）、吉野（2）、松本（7）、佐木・早坂・松本（8）、下村・山本（10）、安藤（11）、
榎本（12）、小口（14）、小浜（17）、山口（18）、小野（34） 計15名

長野、静岡、千葉、東京、神奈川からYWVOB15名が、山梨県の富士急行線禾生（かせい）駅に9時00分集合した。

今回の九鬼山（くきやま）は、その小さな駅の大きな案内板によると、山梨県大月市が選定した秀麗富嶽十二景のひとつだそうだ。標高は970mだが、その後に猿橋までの鬼のように長い縦走が控えている。いつものように各自の自己紹介をすませ出発した。駅から10分ほど車道を歩き明治期の古い水道橋をくぐって少し行った民家の角に小さな道標があり、愛宕神社（道の脇に小さな祠がある程度）からの登山口であることがわかる。道は雪にほぼ覆われていたが、特に問題なく歩けた。

登るにつれ体も温まり調子付く。山頂直下の急登ではさすがに口数がやや減ったものの、終始わいわい言いながら元気に登ることができた。

11時5分山梨百名山でもある九鬼山山頂に到着、ここからも遠くに大菩薩連嶺、北岳、雲取山、近くは岩殿山、扇山が見える。しばし景観を楽しんだ後で昼食をとる。



これから先の下りは北斜面となるので軽アイゼンを装着し、11時45分猿橋に向けて縦走を開始した。山頂直下の下りが急なので慎重に足を置かなければならない。トップをゆく小浜さんがうまくリードし全員が遅れることもなく九鬼山の難所を下ることができた。12時19分紺屋の休み場という場所に到着し、そこからは小さな登り下りの連続で13時33分馬立山、14時20分最後のピークとなる御前山に着く。振り返れば九鬼山が小さく見える。よく歩いたものだ。

ここから下って15時30分には全員が猿橋駅に到着していた。
歩行距離8km、標高差登り830m下り910m、所要時間6時間30分（休憩含む）



■ 第 25 回 OB 山行（皇海山）案内

OB 山行委員長 小野恵美子（34 期）

今回の OB 山行は、百名山に名を連ねる皇海山（すかいさん）です。

アプローチしづらい山ですが、マイカーで日帰り登山が可能です。新緑の季節、足を伸ばして上州の名山歩きを一緒に楽しみましょう。山登りは久しぶりの方、OB 山行初参加の方も大歓迎です。ぜひご参加下さい。



〔日 程〕 2009 年 5 月 16 日（土）

〔行 先〕 皇海山（すかいさん）（2144m）

〔地 図〕 昭文社山と高原地図「20 赤城・皇海・筑波」

〔集合・交通〕 電車では登山口に到着時間が遅くなり余裕

がないため、横浜、東京等からマイカーを出せる方に分乗して登山口に向かう予定です。

出発は、横浜近辺 5 時 30 分頃、東京近辺 6 時頃になると思います。

お申込みの際、お住まいの場所とマイカーか同乗希望かをお知らせ下さい。

参加者が決まりましたら調整いたします。

関越自動車道沼田 IC から国道 120 号で追貝（おっかい）へ。栗原川林道に入り、皇海橋まで。
（皇海橋付近に駐車スペースあり）

登山開始は 10 時頃の予定。

〔行 程〕 皇海橋——二俣——不動沢のコル——皇海山——不動沢のコル——二俣——皇海橋
〔歩程 5 時間 10 分〕

〔参加費〕 500 円（写真代等）

〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物

〔温泉〕 白沢・望郷の湯（500 円） 下山後ご希望の方はご用意を。

〔申し込み〕 参加ご希望の方は、5 月 8 日までに下記のいずれかにご連絡ください。
（お住まいの場所とマイカーか同乗希望かをお忘れなく）

小浜 一好（17 期） 電話：090-8647-7275 メール：kohamak@dream.com

山口 貢三（18 期） 電話：090-9962-7126 メール：k2ysyamaguchi@nifty.com

小野恵美子（34 期） 電話：080-5517-7320 メール：emiko150@ezweb.ne.jp

■ 苗名小屋便り

現役部員と力を合わせて雪下ろし

OB 小屋委員長 安藤貞利 (11 期)

第2回雪下ろしが、晴天に恵まれて終了しました。今回は、現役7名の参加でスムーズに初日で小屋の雪下ろしを終え、2日目も10時半には造林小屋の屋根がきれいになりました。

参加者：鈴木(9)、安藤(11)、山口(18)、塩野(46)

現役参加者：高岩・石倉(50)、茂呂・中野(51)、鈴木・寒風澤・篠田(52)

特別参加者：笹倉(30)、田村(34)、桜井(部外者)

計14名

2月21日(土)五八木荘に夜行バス組が集合、岡田さんへ挨拶して8時過ぎ出発、宮前スポーツでスキーを借りて、循環バスで杉の原スキー場へ。

9時過ぎスキー経験のある現役5名と塩野OBがゴンドラで小屋へ先発。スキーが初めての、現役鈴木、篠田の両君を、にわか指導員のOB鈴木、安藤でスキー講習。2時間スキーをはいて慣れる特訓をしてゴンドラで山頂駅に降り立ち、小屋を目指して、颯爽と滑り出しました。

途中の急斜面は、下まで転げ落ちるのをさけて坪足で下り、三田原ゲレンデ(パノラマゲレンデと呼ぶそうですが)で本格的に滑り出して、現役の両君は、ザックを背負ってのスキーの恐怖を味わったようです。

とにかくスキーがどんどん下へ滑って行って、尻餅ついて止まるしかない。ザックがあつてまともに起きあがれないで、しばらく雪の上でもがいて、スキーがはずれてようやく立ち上がり、板を履くときには、スキー靴の下に付いた雪でうまくはけなかったりと、さんざん手こずっていました。その後は、ゲレンデから小屋までは膝までの新雪で、いったんスキーを外してしまうと、腰までつかる雪で身動きがとれなくなり、疲労の限界を感じたようです。

シブタミ橋のところで、先発隊が長靴とスノーシューをデポしてくれて、感謝、感謝でした。結局、小屋入りは2時で、昼を食べずに現役の2人はよく耐えてきました。

先発隊は、途中で新幹線できた山口さんと合流して小屋入りし、2時にはほぼ屋根の雪下ろしを終えていました。屋根の雪は、新雪のため非常に滑りやすく、足場を固めないで進むと滑り落ちる状態でした。最後に柱を張り出して終わりとなりました。夜は、星がさんさんと輝いて、数分もいると身震いのするほど寒くなりました。



現役部員 苗名小屋雪下ろし体験記

高岩玲生 (50期)

3年目によく雪下ろしです。逃げ切れるのかと思ったのでとても残念です。来年は4年生なので参加できそうもありません。遺憾です。夏と冬の小屋の趣の違いに驚きです。しかし苗名小屋の勇姿をもう見ることができないのは心残りです。

石倉 研 (50期)

3年生になって初めての雪下ろしでした。行きまでも大変で、着いてからも雪との戦いでした。冬の小屋は初めてでしたが、いい経験になりました。OBの方々、いろいろありがとうございました。

中野未樹人 (51期)

4年ぶりのスキーだったせいか5回もこけてしまいました。そのせいで足や手を大いに濡らしてしまい夜はあまり眠れませんでした。次回来るときはホッカイロとか持ってくるべきだと思いました。でも何よ

りもスキーを上達させることが最重要事項ですが。

茂呂将典 (51期)

今回のように多くの現役が小屋に来るのは40周年記念行事以来ということで、期待半分、不安半分(現役のほとんどが初心者ということで)だったのですが、何とか全員無事に小屋にたどり着けて一安心です。

しかし、この文章を書いているのは苗名小屋のこたつの中。これから雪下ろしでへたへたになった体に鞭打って林道を下らなくてはなりません。この文章が載るOB会報が読めるように無事に帰りたいと思います。

鈴木俊平太 (52期)

今回は雪下ろしをしに小屋に来ましたが、スキーを全くしたことがなく、いろいろとご迷惑をお掛けしてしまいました。山小屋に来る前にもう少しスキーの練習をする機会があれば良かったなあと思います。

(2時間ほどの練習では全く滑れませんでした) 前回秋に来たときは紅葉がとてもきれいでしたが、今回の雪景色もとてもきれいでした。スキーができればもっと楽しかったと思います。

篠田匡史 (52期)

今回初めて小屋に行きました。小屋はレトロな感じでとても落ち着きましたが、夜は氷点下に達してとても寒かったです。雪下ろしも初めてでとても疲れましたが、楽しかったです。



造林小屋から見下ろす雪景色

寒風澤 (さぶさわ) 俊彰 (52期)

1年生として初めて小屋に行きました。

久しぶりにスキーをしたせいか(6年ぶり)死ぬほど転び、小屋に着くまでが一苦労でした。

2日目には人生初の雪下ろしを行いました。

屋根から見下ろす景色は怖いながらもとても美しいものでした。雪国は本当に大変ですね……。

雪国に住む祖母の苦労を心から理解しました。

今年の小屋行事

今年の主な小屋行事として3月に春スキーツアー、6月に山菜採り、8月に小屋山行を計画しています。多数のOBの方々のご参加をお待ちしています。

6月の山菜採りは、5期の諸角ご夫妻にご指導いただきます。昨年も実施して大変好評でした。8月の山行は、山行委員会にも協力を呼びかけていきます。

小屋整備は、9月19日～23日にかけて行い、南壁の垂直化、床の張り替え準備を行います。

(2009年山小屋年間活動予定)

1月24日(土) 25日(日) 雪下ろし(実施済み)

2月21日(土) 22日(日) 雪下ろし(実施済み)

3月20日(金)～22日(日) 小屋雪祭り(雪下ろしも兼ねて1日春のツアースキーなどを計画)

6月6日(土) 7日(日) …… 小屋開き、山菜祭り

7月18日(土) 19日(日) 20日(月) …… 草刈り、小屋整備

8月14日(金) 15日(土) 16日(日) …… 小屋山行、キャンプファイヤー

9月19日(土) 20日(日) 21日(月) 22日(火) 23日(水) …… 小屋整備(壁工事、床張り替え)

10月31日(土) 11月1日(日) …… 小屋仕舞い(冬支度)

*参加方法については今後メールでご案内します。

■ 2008年シニアOB月例会報告

シニアOB月例会委員長 塚原伸一郎 (2期)

■シニアOB月例会

シニアOB月例会(2007年まではシニアOB月例山行)は1999年1月に始まりました。2008年で丸10年続いています。当初はシニアの集いの行われる月を除いて、毎月1回、年に10~11回開催されましたが、2008年からは年9回の開催となりました。

2008年12月で通算111回に達しましたが、このうち雨天による中止が7回ありましたので、実施された回数は104回です。10年間の延参加者は3,303名、1回当たりの参加者は31.8名です。

ちなみにシニアOBとは、1期から8期までの136名をいい、平均年齢は推定67.5歳です。

■2008年の月例会

2008年のシニア月例会は予定どおり9回実施されました。2月には吹雪の入笠山に登り、12月は49名という大人数で高川山に登って1年の締めくくりをしました。

この年9回実施されたうち7回は貸切りバスによる山行です。貸切りバスの活用によりマイカー出動の負担から開放されました。

2008年の年間延参加者は326名、1回あたりの参加者は36.2名と大幅に増加しました。

【第103回 富山】・・・2008年1月26日 くもりのち晴、40名

- ・曇りから晴れ、暖かく快適。40名と久しぶりの多数参加。
- ・終了後5期高須氏のお通夜。

【第104回 入笠山】・・・2月23日 雪、29名、貸切バス

- ・冬期番外も4回目、入笠山は2度目の雪山。29名も参加したのに生憎の悪天。頂上は吹雪で何も見えず寒い。
- ・下って温泉入浴はちらほらと小雪の舞う雪見温泉で趣たっぷり。

【第105回 独鈷山(とっこさん)】・・・3月29日 晴のちくもり、36名、貸切バス

- ・高曇りで遠望はきかなかつたが、信州の鎌倉といわれる塩田平がよく見えた。
- ・予定していた独鈷の湯が当日臨時休業で、温泉入浴ができなかつた。(後刻廃業と判明)

【第106回 身延山】・・・4月26日 曇りのち雨、39名、貸切バス

- ・登りだけのAコースと下りだけのBコースに分け、参加しやすくした。
- ・生憎の雨模様で展望はなかつたが、日蓮宗総本山の久遠寺や宝物館がゆっくり拝観できた。

【第107回 日光・半月山】・・・5月24日 曇りのち雨、26名、貸切バス

- ・午前中は男体山、女峰山、奥白根山、皇海山が見えた。
- ・アカヤシオ、シロヤシオ、ミツバツツジがきれいだった。

【第108回 那須・南月山】・・・7月23日 くもり一時晴のち雨、37名、貸切バス

- ・牛ヶ首で一瞬晴れて茶臼岳が望めたが、あとは一面のガスで展望なし。
- ・沼原湿原の花は期待はずれだった。

【第109回 中山道】・・・9月27日 晴/くもり、39名、貸切バス

- ・軽井沢から碓氷峠を越え坂本宿まで、歴史を探訪しながら、古の中山道を辿った。
- ・中山道を下りて峠の湯までは、旧信越本線跡の遊歩道アプトの道を歩いた。
- ・さわやかな秋の冷気の中、紅葉にはまだ早かつたが快適なハイキングであった。

【第110回 茶臼山】・・・10月18日 晴、31名、貸切バス

- ・ 好天に恵まれ、爽やかな紅葉狩りハイクだった。
- ・ 茶臼山からは、五辻を辿ってロープウェイ駅に至る A コースと、縞枯山を越えてロープウェイ駅に至る B コースに分けた。
- ・ この山行は08年企画賞を受賞した。

【第111回 高川山】・・・12月21日 晴、49名

- ・ 本年最後の忘年山行は、49名という史上2番目の多数参加となり、2つのパーティーに分けて登山した。狭い頂上は登山客で溢れていた。
- ・ 好天ではあったが暖かかったので遠望がきかなかった。
- ・ 下山後、稲村神社で2008年表彰を行った。

企画賞：第110回茶臼山 皆勤賞：14名（過去最多）



2008年企画賞受賞山行
08.10.18 茶臼山



2月
吹雪の
入笠山



7月 那須・茶臼岳

9月
遊歩道
アプトの道



■2008年実施状況

[月別実施状況]

回	月	コース	天候	幹事	参加者	摘要
第103回	1.26(土)	富山	△～○	7.服部	40	
第104回	2.23(土)	入笠山	雪	7.小林	29	貸切バス
第105回	3.29(土)	独鈷山	△	6.岡田	36	貸切バス
第106回	4.26(土)	身延山	△～×	2.吉野	39	貸切バス
第107回	5.24(土)	半月山	△～×	3.腰塚	26	貸切バス
第108回	7.23(水)	南月山	△	8.早坂	37	貸切バス
第109回	9.27(土)	中山道	△～○	4.郡司	39	貸切バス
第110回	10.18(土)	茶臼山	○	7.小林	31	貸切バス
第111回	12.21(日)	高川山	○	6.近藤	49	
					326	月平均 36.2

[2008年皆勤賞]

期	氏名	摘要
2期	吉野大次郎	9回目
2期	北見美智子	4回目
2期	塚原伸一郎	初受賞
3期	腰塚 典明	10回目
3期	塩谷佐紀子	4回目
3期	白井 信行	4回目
3期	吉村 元孝	4回目
4期	郡司 直樹	3回目
4期	大黒美代子	3回目
6期	岡田 光豊	2回目
7期	古宮智津子	7回目
7期	林 誠一	4回目
7期	井上 義雄	初受賞
8期	松本真理子	2回目

[100回参加賞]

期	氏名	通算回数 回
2期	吉野大次郎	102
3期	腰塚 典明	104

[30回参加賞]

期	氏名	通算回数 回
3期	金田 精彦	32
6期	近藤 博昭	33
8期	早坂 宗	31
8期	早坂富美子	31
8期家族	池原美保子	31

[50回参加賞]

期	氏名	通算回数 回
3期	吉村 元孝	55
7期	服部 七郎	52
7期	井上 義雄	56

(通算回数は08年12月現在)

■通算実施状況

[参加者数]

年	実施回数 回	参加者 人	1回当たり 人
99年	10	238	23.8
00年	11	304	27.6
01年	10	317	31.7
02年	9	340	37.8
03年	11	337	30.6
04年	10	332	33.2
05年	11	367	33.4
06年	12	397	33.1
07年	11	345	31.4
08年	9	326	36.2
計	104	3,303	31.8

[企画賞]

年	月	コース	幹事
00年	12月	石割山	7期小林
01年	6月	尾瀬ヶ原	4期斎藤
01年	11月	大菩薩嶺	2期塚原
02年	5月	甘利山	7期小林
03年	5月	榛名山	2期塚原
04年	03.12月	仏果山	8期田中
04年	1月	宝登山	1期嘉納
05年	9月	箱根・仙石原	4期谷上
06年	1月	入笠山	7期小林
06年	11月	赤城・地藏岳	8期田中
07年	10月	物見山	3期腰塚
08年	10月	茶臼山	7期服部

[参加者数ベストテン]

順位	コース	年月	幹事	参加者 人
1	A.鎌倉天園 B.寺社巡り	06年1月	7期小林	51
2	高川山	08年12月	6期近藤	49
3	鎌倉・源氏山公園	02年1月	3期江崎	47
4	三原山	05年1月	4期谷上	46
5	磐梯山	04年8月	8期田中	45
6	大菩薩嶺	01年11月	2期塚原	43
6	日光・白根山	02年6月	8期池原	43
6	幕山	05年2月	5期亀井	43
9	パノラマ台	02年3月	5期亀井	42
9	甘利山・千頭星山	02年5月	7期小林	42
9	三浦富士・武山	07年1月	2期塚原	42

[皆勤賞取得回数ベストテン]

順位	氏名	回数 回
1	3.腰塚 典明	10
2	2.吉野大次郎	9
3	7.古宮智津子	7
4	2.北見美智子	4
4	3.塩谷佐紀子	4
4	3.白井 信行	4
4	3.吉村 元孝	4
4	7.林 誠一	4
9	4.谷上 俊三	3
9	4.郡司 直樹	3
9	4.大黒美代子	3

自由投稿

ヒマラヤ トレッキング紀行 (08年10月31日～11月21日)

林 誠一 (7期)

参加者：松本弘道 (7)、林 誠一 (7) 他8名

経 緯：LSC (ロングスティクラブ) というクラブがあって、会員達は世界中至るところに長期滞在し、生活を楽しんでいる。ヒマラヤトレッキングも10年前から毎年実施されていた。

松本はこの会に数年前から参加していて、予ねてよりヒマラヤ山行を希求していた筆者に今回マナスルトレッキングと一緒に参加しないかと誘われた。

トレッキング地：ネパールの首都カトマンズから北西200kmにあるベシサハールという町からヒマルチェリー(7893m)を登るルートが最近開発された。そのルートを使ってベースキャンプ近くまで登り、マナスル、アンナプルナを間近で眺めようというもの。まだ知られていないルートだけに他のパーティーに会うことなく静かな山歩きを楽しめるが、すべてテント泊となる。

10月31日 (金) 出発!

11月1日 (土) バンコクからカトマンズ、2日 (日) カトマンズからベシサハールへ

11:45 成田空港発のタイ航空でバンコク経由カトマンズへ。

カトマンズ (標高1300mの盆地) の空港では、コーディネーターのパサン他シェルパが出迎えてくれた。2日はベシサハールに移動。

11月3日 (月) 登山開始、テント泊初日、テントサイトでホテル乱舞

今回のトレッキング隊は、シェルパ、コック、キッチンボーイ、ポーター全員で29人になり、我々をいれて合計40名の大名行列が町を通り、マーシャンディ川を目指して下る。雪を被った山がみえたが、マチャプチャレ (6993m)、アンナプルナ辺り (7525～8091m) のようだ。

釣橋を渡ると登りの連続。昼食はヘレ (1200m)。この場所に辿り着く直前の登りは急登で、息もたえだえだったが、着いてみるとロムジュンヒマール (6986m) などがよく見えた。

15:17 ようやく本日のテントサイト、タクスハールダダ (1580m) に到着。

夕食も終わり、たまたま外に出て、びっくりした。ホテルが乱舞していた。冬なのに!



利用したテントとヒマルチェリー

11月4日 (火) 最初で最後の雨、ベイラカラカ (ベイラは山羊、カラカは放す、標高2600m) 泊

8時過ぎ出発のときは17℃、曇り、シェルパ達のテント撤収は手際がいい。歩き出してしばらくすると雨がちらほら、10時頃から本格的に雨が降り出したがまもなく止んだ。途中で花盛りの山桜や石楠花の巨木を見た。しばらく尾根道を歩き、最後はきつい急登、15:48 テントサイトのベイラカラカに到着、テント泊り2日目。夜中トイレに起きたら、ものすごい数の星がとてもきれいだった。

11月5日 (水) 3000m 越え、バーラポカリ (12の池) 泊り、6日 (木) 停滞、7日 3700m に

朝6時起床、快晴、気温6℃で少し寒い。周りの山々 (アンナプルナ、マチャプチャレ、ロムジュンヒマール、マナスル、ピーク29、ヒマルチェリーなど) が朝日に輝いていた。11:50、バーラポカリ (3000m、ポカリつまり池があり水に困らない) に到着。6日、朝起きて外に出ると霜が下りていた。あまり寒くないが、池の水が一部凍っていた。高度順化訓練も兼ねて、3200～3300mまで登り景色を眺めた。

7日は快晴、外気温8℃、今回のトレッキングでの最高峰を目指して登山開始。登りはきつい。酸素も薄く、足が重い。ゆっくり行動しないと息がきれる。

12:15 目的地チャルビダンダ到着。この辺りが森林限界。5日目から8日目までここで過ごした。石楠花（大木）はこんな高地でも咲く。

11月8日（土）停滞、9日（日）4000m越え、雷鳥目撃、10日（月）今日も停滞、チハンデコラの源流

8日は風もなくとても静かな休日、早速近くの小高い見晴台まで登り、ヒマラヤを飽きるまで眺めた。

9日は弁当持参で2~3時間のトレッキングを楽しんだ。10時に尾根（4000m）に到着。

ここで雷鳥4羽と遭遇、カメラを向けたら飛んで行ってしまった。後に羽が残されており、貴重なお土産になった。

10日は100m東の方に下った水源まで散歩。この沢がチハンデコラの源流で、この川はマーシャンディ川の支流であり、さらにインドガンジス河につながる流れ。



ヒマラヤをバックにシェルパと参加者

11月11日（火）見納め白き峰々

12日（水）雲海と毛虫ダンス

13日（木）キャンプファイヤー

8:55 住み慣れたキャンプサイトを撤収、ふたたびバーラポカリに向かう。12日は5:55起床、谷の下の方に雲海、白い峰は朝日に輝き、素晴らしい。8時下山開始、11:40 チトリー着（2500m）。午後はフリータイム、近くを散歩していたら奇妙な物を見つけた。近くの木の枝に集団で巣を作っていた黒い毛虫が音の刺激で一斉に起き上がったのだ。まるでラインダンスだがちょっと気持ち悪い。

13日9時おにぎり持参で、好眺望地にハイキング。夕方、近くに転がっている倒木を集め、キャンプファイヤーをした。酒を持ち寄り、談笑し、思い出に残るイベントとなった。

11月14日（金）急降下と村娘の踊り（最後のテント泊）、15日打ち上げパーティー

8:55 名残り惜しみつつ、テントサイトを後にした。下山道からは、遠くに菜の花が咲く段々畑、満開の山桜（11月なのに春の花）。暫く下ると崖の上にてだ。恐る恐る下を見ると、遥か下方にブスミー村がみえ、なんと崖下300m急降下するんだと。実際下ってみると怖いくらい急な坂道だった。夕食後、村娘達が踊りをみせてくれるということで、畑に村人が50人も集結、一緒に踊ったり、歌ったり、楽しい交流の場。15日 ブスミー村から約800m下って、再びベシサハールに着いた。一番嬉しかったのは、シャワー（水だったが）を使えること。夕方はお世話になったシェルパ、コック、ポーターたちと打ち上げパーティー。中庭にネパールで一番人気の民謡「レサン フィリリ」の唄が響き渡った。

11月16日（日）~20日チトワン国立公園~カトマンズ

ベシサハールからミニバスでチトワンに移動、ここで3泊し、ベンガル虎を見たり、エレファントサファリを楽しんだ。カトマンズでは、スワヤンブナート寺院やダルバール広場、旧王宮を見学した。



桜草に似た花 ロンブル

11月21日（金）帰国へ

カトマンズ発 14:20 の飛行機で、バンコク経由、翌朝 6:24 成田着で全員無事帰国した。

今回のトレッキングの特徴は12泊のテント生活（快適）とごく最近開発されたトレッキングコース（好眺望で静か）に挑戦したこととチトワン国立公園の観光を楽しめたこと。

現地で印象的だったのは、夏冬が混在していたこと。例えば、ポインセチアとハイビスカス、ブーゲンビリアが咲き、バナナとりんご、みかんが採れ、クワガタとホタルがいるそばに霜柱があった。

■ YWV 現役部員の活動紹介

高岩 玲生 (50 期)

新主将紹介

51 期の主将となった茂呂将典 (工学部電情) は、埼玉県川越高校山岳部出身であり、入部当初から次期主将として期待されていた。実際に彼の働きは目覚ましく、入部から一年が経過した時点では誰もが彼の次期主将を疑っていなかった。

しかし彼が 2 年になったとき、強力なライバルが現れた。鈴木である。鈴木は途中入部にもかかわらず、その年のワングルの行事に全て参加するなどの活躍をし、茂呂の座を脅かしたのである。

激戦の末主将は結局茂呂となったが、これに驕ることなく、鈴木とは今後も競い合い、お互いに高めあってワングルを繁栄させていって欲しい。

PS : 茂呂の趣味は読書。西谷のコンビニでバイトをしており、今年から岡沢町に引っ越した。高校の時は冬山にも登っていたらしく、登山経験は豊富。特技は米炊き、米の声を聞くことができるらしい (自称)。

(文章の一部はフィクションであり、実際の出来事とは直接関係がないことがあります)



新主将茂呂とその部下鈴木
苗名小屋 40 周年記念山行、火打山にて

春合宿計画 屋久島宮之浦岳

日 程 : 3/6 淀川入口 → 淀川小屋
3/7 淀川小屋 → 宮之浦岳 → 新高塚小屋
3/8 新高塚小屋 → 縄文杉 → 辻峠 → 白谷雲水峡

メンバー : CL 茂呂将典 (2 年・電情)、SL 中野未樹人 (2 年・物工)
小林貴志 (4 年・建設)
高岩玲生 (3 年・物工)、石倉研 (3 年・経済シス)
鈴木俊平太 (2 年・知物)
野中拓登 (1 年・経営)

春合宿は 3 年連続で屋久島です。屋久島の後、PW で霧島や久住、阿蘇を巡るそうです。

塩野貴之 (46 期)

■ 編集委員からのお知らせ

【訃報】 加藤英二氏（23期）が2009年1月3日に亡くなりました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

- OB会報40号の内容の訂正とお詫び
・7～8ページ 2009年度一般会計予算表に間違いがありました。
訂正してお詫び申し上げます。訂正後の表はつぎのとおりです。

2009年度 一般会計予算訂正

下線 () 部分が訂正箇所です。

(08実績) (09予算)				(2008.10.1～2009.9.30)			
前期繰越	1,874,080	1,375,173		収入	支出		
費目	08実績	09予算	差額	費目	08実績	09予算	差額
年会費	174,000	80,000	-94,000	会報作成・発行費	381,553	350,000	-31,553
前納会費	361,666	358,333	-3,333	小屋会計振替	150,000	150,000	0
一般寄付金	105,500	70,000	-35,500	総会費用	14,000	<u>50,000</u>	<u>36,000</u>
小屋寄付金	127,500	130,000	2,500	山行費用	22,986	<u>30,000</u>	<u>7,014</u>
総会参加費	0	0	0	役員会費用	24,932	30,000	5,068
山行参加費	13,700	20,000	6,300	HP委員会費用	7,220	30,000	22,780
名簿郵送関連	13,000	10,000	-3,000	部史編纂委員会費	16,000	30,000	14,000
その他収入	7,796	10,000	2,204	名簿郵送費	5,397	5,000	-397
計	803,162	678,333	-124,829	関西支部補助	10,310	<u>0</u>	<u>-10,310</u>
				50周年記念事業費	510,668	0	-510,668
				小屋40周年事業費	0	<u>150,000</u>	<u>150,000</u>
				その他支出(予備費)	159,003	50,000	-109,003
				計	1,302,069	<u>875,000</u>	<u>-427,069</u>
(前納会費215名	361,667	358,333)		当期収支	-498,907	<u>-196,667</u>	<u>302,240</u>
(今年度納入25名)				次期繰越	1,375,173	<u>1,178,506</u>	<u>-196,667</u>
				(前納会費繰延	1,416,667	1,308,333)	
特別準備金	08.9.30	09.9.30		次期繰越	08.9.30	09.9.30	
定額貯金	5,238,000	5,238,000		次期繰越	1,375,173	<u>1,178,506</u>	
総合通帳	291	291		前納会費繰延	1,416,667	1,308,333	
計	5,238,291	5,238,291		前受金	400,000		
				計	3,191,840	<u>2,486,839</u>	

- 編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。
自由投稿コーナー、名人紹介コーナー等の原稿、写真、スケッチなどどしどしお寄せ下さい。

宛先 下村 蓉子 (10期) shimomurayouko@ybb.ne.jp
松本真理子 (8期) marihiro@cc.catv-yokohama.ne.jp



九鬼山途中からの富士山
2009/01/17
撮影：榎本吉夫（12期）

YWVOB 会会報第 41 号

発行行：横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発行日：2009 年 4 月 1 日
発行責任者：鈴木弥栄男(9)
編集責任者：編集委員長 下村 蓉子(10)
編集集：編集委員 松本真理子(8)
印刷所：株式会社 カワチヤ・プリント（東京都港区新橋 5-31-7）
編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。